

補 足

本書「平成 24 年度 高校受験用 渋谷教育学園幕張高校 3 年間入試と研究」の前期試験の社会・理科の試験について、「出題傾向と今後への対策」を補足させていただきます。

内容は、本書掲載の英語・数学・国語の「出題傾向と今後への対策」同様、以下のようになっています。ぜひ、参考にしてください。

【内容】

- ・ 出題内容と傾向
- ・ 今後への対策
- ・ 過去 4 年間の出題分野一覧表（平成 24 年度予想付き）

2011 年 8 月

(株)声の教育社 編集部

社会 ◇ 出題傾向と今後への対策 ◇

【出題内容と傾向】

本校の出題形式には年度によって多少の変更があるが、方針は比較的一貫している。それは、どの分野も、「流れをどれだけ把握しているか」を試されるという点においてである。ここでは、受験対策上の一応の目安として出題内容と傾向の特色について述べておこう。

第一に問題数である。大問は、歴史・公民・地理各1～3題で、総大問数3～4題という構成である。また、小問は歴史15～16問、公民10～12問、地理8～13問で、総小問数は30～40問となっている。第二に出題形式である。選択式が最も多いが、記述式が5割程度出題されたこともある。論述式の問題も多く、対策が必要といえよう。第三に難易度については標準的な問題が中心となっているが、かなり細かい知識を問う問題や選択肢の微妙なものも少なくないので、高得点を得ることは容易ではない。第四に、各分野についてである。歴史的分野では、日本の各時代の政治・経済・文化などの知識を問う問題が多く、世界史と関連させた形式のものもよく出題される。公民的分野では、記述式問題の割合が他の分野に比べて高い。裁判や国際社会に関連する問題が比較的多いが、政治などをからめた時事問題の出題も少なくない。そのため、三分野の中で、最も出題の予想がつけにくいと思われる。地理的分野では、世界や日本の諸地域について地図・グラフ・表などを用いて問う問題が中心である。資料を読み取る、地理の応用的な問題が出されることもある。

全体的に奇問や重箱の隅をつつくような問題は見受けられないが、教科書の詳細な説明や欄外の注、図表などからも出題されることがある。分野によっては教科書外からも出題されたり、時事的な事柄について出題されたりするので注意を要する。標準的な問題についての確実な知識とともに、それを応用する力を試そうとしているといえるだろう。

【今後への対策】

本校の場合、広範な知識を身に付けておかなければならないが、まず教科書の重要事項を確実に理解したうえで、教科書の欄外の注や図表・写真・絵などにもよく目を通しておこう。

分野別に対策を述べておこう。地理的分野では世界と日本の各地域の特色を白地図などを利用して整理しておくことである。また、『日本国勢図会』などで貿易・産業などについての統計を見ておこう。歴史的分野では日本の各時代の重要な出来事や文化などについてまとめておくとよい。また、日本と中国・朝鮮の交渉史や近代ヨーロッパ史など、テーマ別の略年表作りも効果的であろう。公民的分野では憲法の重要条文をよく読み、各章ごとに整理する。基本的な経済用語や国際機関などについてもまとめておこう。さらに、時事問題対策として新聞やテレビのニュースにも親しんで、国内外の大事件などはメモをとっておくとよい。そして、記述・論述式対策として人名・事項名などを漢字で正確に書けるようにしておきたい。

〈社会出題分野一覧表〉

分野	年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 予想※
地形図						
アジア				産人		△
アフリカ				地 人		△
オセアニア						△
ヨーロッパ・旧ソ連					地 人	△
北アメリカ		人			地	◎
中・南アメリカ			地			△
世界全般		産 産			産	◎
九州・四国						△
中国・近畿					産	△
中部・関東						◎
東北・北海道			地産人	地産		◎
日本全般					産	◎
文明のおこり～貴族社会		○		○	○	◎
武家社会とアジア				○	○	◎
世界の動きと天下統一		○		○	○	◎
江戸時代とヨーロッパの近代化		○		○	○	◎
近代日本のあゆみ		○		○	○	◎
2つの世界大戦と日本		○		○	○	◎
現代の世界と日本		○		○		◎
家族・社会生活と文化						
基本的人権と日本国憲法				○		△
政治のしくみとはたらき		○		○	○	◎
国民生活と経済		○		○	○	◎
国民生活と福祉				○	○	△
国際社会と平和		○		○		△
時事問題				○	○	◎

※ 予選欄 ◎印：出題されると思われるもの。 △印：出題されるかもしれないもの。
 地理的分野については、各地域ごとに出現内容を以下の記号で分類しました。
 地…地形・気候、産…産業・貿易・交通、人…人口・文化・歴史、産…総合

【出題内容と傾向】

大問数は4題、小問数は各大問ごとに5～8問で計25問前後である。一つ一つの大問はそれぞれ物理・化学・生物・地学の分野ごとの出題であり、独立小問の集合題はない。また、個々の出題形式にはさまざまな工夫が見られ、多様性に富んでいることが特徴的である。記号選択式は全体の4分の1程度で、記述式の出題形式に重点が置かれている。単純な語句記述に加え、理由を問うもの、事象を説明させるもの、実験の結果を問うものなど、文章の形で答えさせる出題が少なくない。計算問題も全体の約3分の1を占めており、また、化学反応式を書かせる出題もある。単なる暗記力ではなく、記述式出題を通して理科的な実力をみようという意図がうかがえる。このため、各小問は基本事項を問うものであるにもかかわらず、難易度は低くない。

出題内容を具体的に見てみると、実験や観測・観察に基づいた図や表、グラフに関連した出題が多いことがわかる。これらは、実験や観測・観察の方法と目的、得られた結果とその原因についてしっかりと理解していなければ、正しく解答することは難しい。特に、化学分野の計算問題では、単に公式に当てはめるのではなく、表やグラフの数値データを理解する力を要求している。単位を含めて、数値データの意味内容を正しく把握し、応用できる力を求めているといえるだろう。また、その意味するところを自分の言葉で表現できる力も必要である。

これらのことから出題の「ねらい」をさぐってみると、理科の各分野の具体的な事象について、上べだけではない根本的な理解力の判定をめざしていることがうかがえる。また特定の分野に偏らず、物理・化学・生物・地学の各分野にバランスよく習熟していることを求めているといえる。理科に欠かせない数学的な能力や、広い視野の有無も合わせてみようとしており、全体として理科の総合力を適切に判定するものであるということがいえるだろう。

【今後への対策】

出題される事項は基本的なものであるため、教科書を中心とした学習をしっかりとやっていくことが何よりも大切である。しかしながら、教科書を読んで問題を解いていくだけでは、記述式が中心となっている出題には対応できない。ノートを作成し、丹念にまとめていく方法をとるのがよい。実験や観察は一つ一つについて、使用する実験器具の図も含めて、方法・結果・法則や注意点についての考察に分けてていねいにまとめていこう。手順1つにも大切な意味がこめられていることが多いので、常に『なぜ』を意識して、その理由を確認しながらノートに書いていこう。わからない部分や理解しにくい部分は、参考書を活用したり、先生に質問することで必ず解決しておきたい。時間がかかるが、ノート作成さえできればあとは見直しだけでよい。また、計算問題でも、単に公式を当てはめるのではなく、公式の意味を考えながら解いていくのがよい。これらが実践できれば、十分な合格答案ができるだろう。

＜理科出題分野一覧表＞

分野	年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 予想※
身近な物理現象	光と音	○				△
	力と圧力			○	○	●
身の回りの物質	気体の発生と性質					
	水溶液					
	物質の性質と状態変化					
電流とその利用	電流(静電気、オームの法則)					△
	電流と磁界					△
化学変化と原子・分子	物質の成り立ち(原子・分子)					
	化学変化(化学反応式)	○	○	○	○	●
	化学変化と物質の質量			○	○	●
運動とエネルギー	運動の規則性(力のつり合い、速さ)		○	○		●
	力学的エネルギー					
化学変化とイオン	水溶液とイオン					●
	酸・アルカリとイオン					
科学技術と人間(エネルギー・科学技術)						
植物の生活と循環	植物の体のつくりとはたらき		○			●
	植物の種類					
大地のつくりと変化	火山と地震					
	地層の重なりと広がり					
動物の生活と生物の繁殖	生物と細胞		○	○		△
	動物の体のつくりとはたらき	○	○			●
	動物の種類・進化					
気象とその変化	気象観察・雲や霧の発生	○		○	○	●
	気象の変化・日本の気象				○	△
生命の連続性	生物の成長とふえ方		○		○	●
	遺伝の規則性と遺伝子					△
地球と宇宙	天体の動きと地球の自転・公転		○			●
	太陽系と恒星		○			●
自然と人間(生物と環境・自然の恵みと災害)						
総合	実験の操作と実験器具の使い方		○			△

※予想欄 ○印：出題されると思われるもの、△印：出題されるかもしれないもの、分野のカッコ内は主な小項目